

埼玉県熊谷市を拠点とする埼玉福興株式会社(代表取締役 新井利昌氏)は、知的障がい者生活寮からスタートし、「家族という形」「労働力の主力となって働く」をテーマに障がい者が社会的に自立し、障がい者と共に人生を歩む環境とシステムの創造を目的に1996年設立された。現在は社会に適用することが難しい地域の高齢者、障がい者、ニートや引きこもりの若者たちと共に、ソーシャルファームとして地域活性化に貢献し、社会的課題の解決に挑戦している。

内閣府の全国統計によると、身体障害者393万7千人、知的障害者74万1千人、精神障害者392万4千人(平成26年厚生労働省作成)合わせて約860万人、ニート(若年者)71万人、中高年(40〜64歳)の引きこもり61万人(2019年内閣府推定)という現状は深刻だ。

ソーシャルファームに詳しい社会福祉法人恩賜財団済生会理事長の炭谷茂氏によれば、①通常の労働市場では就労の機会を得ることの困難な者に対して②通常のビジネス手法を基本にして③仕事の場を創出することがソーシャルファームの目的で、具体的には障がい者だけでなく、高齢者、母子家庭の母親、ニート・引きこもりの若者、刑務所出所者、ホームレス、被差別部落など社会から排除されたり社会から孤立してしまう者に対して、補助金等に頼るだけでなく「市場原理に基

障がい者の就労を支援し 地域の活性化などに貢献

NPO法人銀座ミツバチプロジェクト 最高顧問 高安和夫



オリーブ農園を案内する埼玉福興株式会社の新井利昌社長(右端)

づく」事業性を基本とした働く場を創設することで、地域社会の一員として迎える「ソーシャル・インクルージョン」が重要だという。

ソーシャルファーム(イタリアでは「ソーシャルコーポラティブ(社会的協同組合)」は1970年頃に北イタリアの精神病院で始まった。入院治療が必要でなくなった者が地域に住み仕事に就こうとしたが、偏見差別意識から雇用する企業が現れな

かったため、病院職員と患者が一緒になって仕事を始める企業を自ら作っていったのが始まりで、1980年代に、ドイツ、オランダ、フィンランド、イギリスなど、ヨーロッパ各地に広

事業紹介

NPO法人銀座ミツバチプロジェクトは、2006年3月から銀座のビルの屋上でミツバチ飼育を開始。ホテル、レストラン、百貨店など銀座の老舗と連携したハチミツ商品づくりや屋上緑化、地域の生産者との交流事業を通して街の活性化に貢献。平成22年6月環境大臣表彰。平成24年4月農林水産大臣より「食と地位の『絆』づくり」選定を受ける。

するだけでなく、ニワトリやヤギも飼育し、働く者の個性や能力にあった仕事を提供すると同時に、訪れる者に癒しと安らぎも与えてくれる。

がり、最初は「障がい者」のためであったが範囲も徐々に拡大した。埼玉福興株式会社の新井社長から「養蜂に取り組みたいので手伝って欲しい」と相談を受けたのは2017年であった。担当するTさんは発達障害でコミュニケーションに課題はあるが、養蜂に関心を持ち熱心に勉強して知識を身につけていった。自然栽培のオリーブ農園に設置した巣箱のそばにカメラを用意しアプリでいつでも巣門の様子を観察できるようにした。オリーブ農園の管理もTさんの仕事だ。オリーブの受粉はミツバチの役目ではないのだが、下草にハーブや沢山の草花を植え、蜜・花粉源とした。その甲斐あって昨年は見事に冬越しにも成功し、春に巣を分けて、現在3群のミツバチを飼育しフロアハイブ(オーストラリアで開発された新型巣箱)にも挑戦している。この農園ではオリーブオイルやオリーブリーフパウダー(葉の粉末)、ハーブや蜂蜜を生産